

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(2/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ふじのくに先端医療総合特区 (静岡県)	4.2	3.9 進捗度 ・がん診断装置・診断薬の開発 100% ・その他医療関連製品の開発 130% ・医療機器生産金額(県内) 43%	4.1 規制の特例等 ・国内品質業務運営責任者の資格要件について等 財政支援等 ・医療機器等開発・参入支援事業 総合特区支援助利子補給金 地域独自の取組 ・沼津高等専攻科「医療福祉機器開発工学コース」の開設等	4.4	<p>・国の支援措置の活用をはじめ、地域独自の支援措置の充実を目指した戦略的な取組が評価できる。「規制の特例処置」、「財政・税制・金融支援の活用」及び「地域独自の支援措置」が活かされ、事業が実現していることは頼もしい。</p> <p>・がんの先制治療を目指すための遺伝子データの蓄積が着々と進み起業も行われたこと、大企業から中小企業に至るまでファルマバレーに集積した企業が医療関連製品開発の実績を上げていること、人材育成に注力していることなどが評価できる。</p> <p>・医療機器生産金額の伸び悩みが課題である。新たな誘致策、マーケティングも考えられているようなので、今後、その効果に期待する。</p> <p>・特区の取組と関連性が必ずしも高くない県内医療機器生産金額を指標に加えている点は、本特区の過小評価にもつながりうるため、他の指標への置換え等も検討する必要がある。</p>